

2020年度 第1四半期 決算説明会

2020年8月4日

ブラザー工業株式会社

財務担当執行役員 伊藤 敏宏

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おさください。

2020年度 第1四半期実績

✓ コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、減収減益

- ・通信・プリンティング機器は、在宅勤務拡大によりSOHO向け需要増も、SMB向けのPV減少を補えず
- ・P&H事業は、手作り需要が喚起され、普及機を中心に販売増加
- ・ガーマントプリンターは需要拡大も、工業用ミシンの需要は低迷が継続
- ・産業機器は、IT向けはスポット案件効果があるものの、自動車・一般向けの需要は低迷
- ・N&C事業は、店舗休業の影響、業務用カラオケ機器の需要の落ち込みにより、大幅な赤字

2020年度 通期業績予想

✓ 下期にかけて一定の回復を見込むも、厳しい経営環境が続く

- ・P&S事業は、在宅勤務拡大による需要増も、オフィスでのPV減少、供給遅延影響もあり、減益となる見込み
- ・N&C事業は、下期にかけて緩やかな回復を見込むも、需要はコロナ前の水準には回復せず、大幅な赤字を見込む
- ・今期は著しい業績の悪化が見込まれることから、2020年度の配当金は、年間34円の配当とする。

2020年度 第1四半期決算は、非常に厳しい事業環境となり、コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、マスクなどの手作り特需があったP&H以外の全ての事業で減収減益となりました。

- ・P&S事業
在宅勤務の機会拡大により、SOHO向けの需要は増加しましたが、SMB向けのPVの減少を補うことはできませんでした。
- ・P&H事業：
手作りに対する需要が喚起され、普及機を中心に大幅な増益となりました。
- ・工業用マシン事業：
ガーマントプリンターは需要の拡大がありましたが、工業用マシンについては需要の低迷が続きました。
- ・産業機械：
IT向けにスポット案件の効果がありましたが、自動車・一般向けの需要は低迷しました。
- ・N&C事業：
直営店舗の休業の影響、カラオケ機器の需要の落ち込みにより、大幅な赤字となりました。
- ・ドミノ事業：
本体販売は減速し、大幅な減益となりました。

2020年度の通期業績予想は、コロナウイルス感染症拡大の影響が継続し、大幅な減益となる見通しです。

- ・P&S事業：
在宅勤務の機会拡大による需要の増加も、オフィスでのPVの減少に加え、供給遅延の影響もあり、減益となる見込み
- ・N&C事業については、下期にかけて緩やかな回復を見込んでいるものの、需要はコロナ前の水準には回復せず、大幅な赤字となることを想定

配当金については、2020年度通期で、著しい業績悪化が見込まれることから、配当性向35%にあたる、年間1株あたり34円の配当とさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症拡大による厳しい事業環境を受け、
Q1は減収減益となる

単位：億円

	19Q1	20Q1	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率
売上収益	1,592	1,332	-260	-16.4% (-13.0%)
事業セグメント利益	176	86	-90	-51.1%
事業セグメント利益率	11.1%	6.5%		
その他の収益・費用	4	6	2	
営業利益	181	93	-88	-48.8%
営業利益率	11.4%	7.0%		
税引前利益	180	95	-86	-47.5%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	129	66	-63	-48.6%
USD	110.00	107.74		
EUR	123.29	118.94		

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

3

新型コロナウイルス感染症拡大による厳しい事業環境を受け、
2020年度 第1四半期累計期間は、減収減益の決算となりました。

売上収益は、前年比 260 億円減収となる **1,332億円** となりました。

利益面は、
 事業セグメント利益は、90億円減の **86億円**、
 営業利益は、88億円減の **93億円**、
 親会社四半期利益は、63億円減の **66億円** と大幅な減益となりました。

2020年度第1四半期 事業セグメント別実績



単位：億円

		19Q1	20Q1	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	982	829	-153
	事業セグメント利益	164	94	-71
	営業利益	166	101	-65
パーソナル&ホーム	売上収益	89	109	20
	事業セグメント利益	1	14	12
	営業利益	1	14	13
マシナリー	売上収益	205	150	-55
	事業セグメント利益	5	-1	-7
	営業利益	6	-4	-9
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	113	62	-52
	事業セグメント利益	-6	-23	-17
	営業利益	-5	-23	-17
ドミノ	売上収益	169	154	-15
	事業セグメント利益	11	4	-7
	営業利益	11	2	-9
その他	売上収益	34	28	-6
	事業セグメント利益	2	0	-2
	営業利益	4	2	-2
合計	売上収益	1,592	1,332	-260
	事業セグメント利益	176	86	-90
	営業利益	181	93	-88

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

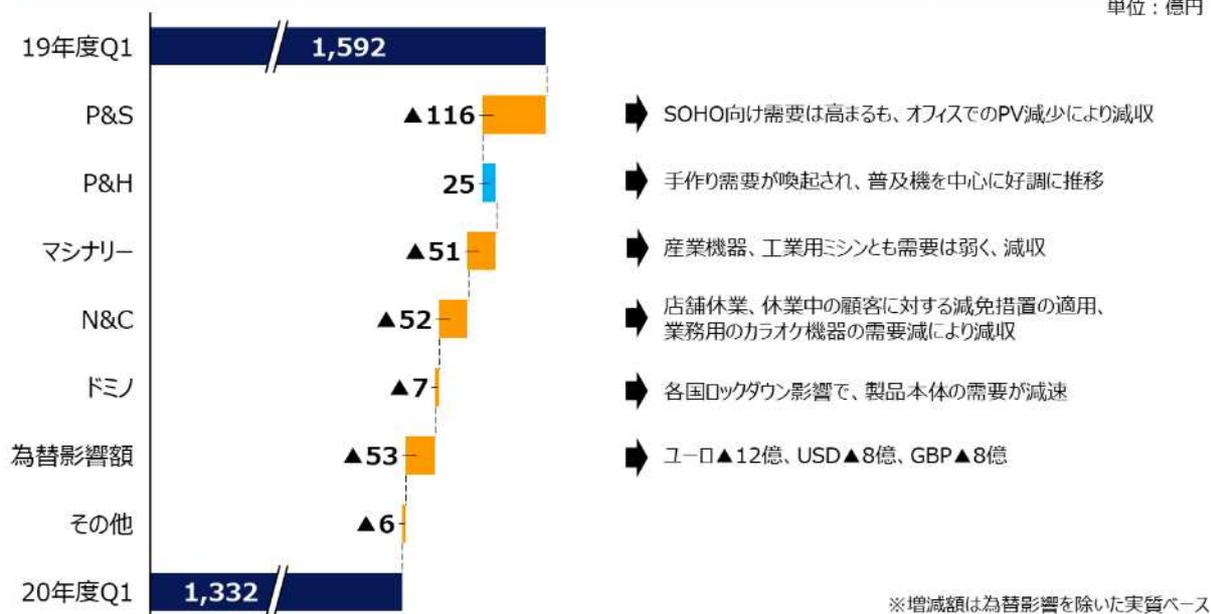
4

事業セグメントごとの業績一覧です。

2020年度第1四半期 売上収益の増減要因

コロナ影響により、ほぼ全ての事業において需要が減少し、減収となる

単位：億円



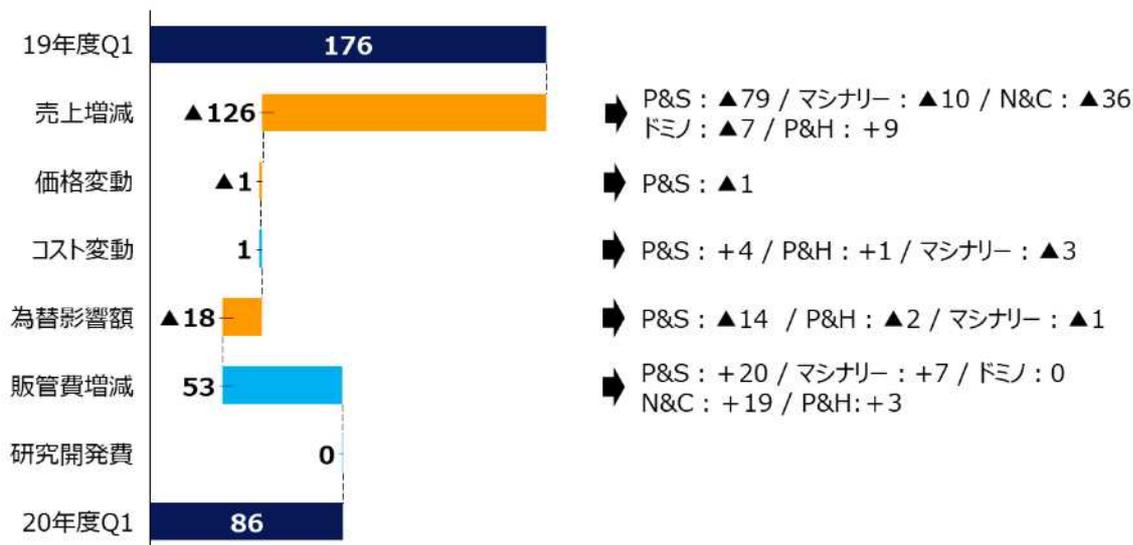
20年度 第1四半期の売上収益の増減要因です。

- ・P&Sは、在宅勤務、在宅学習の機会の増加により、SOHO向けの需要は高まりましたが、オフィスでのPVの減少により、116億円の大幅な減収
 - ・P&Hは、手作り需要が喚起され、普及機を中心に好調に推移し、25億円の増収
 - ・マシナリーは、産業機器、工業用マシン、工業用部品とも需要の弱い状況が続き、51億円の減収
 - ・N&Cは、店舗の休業、休業中の顧客に対する減免措置の適用、業務用カラオケの需要減により52億円の減収
 - ・ドミノは各国ロックダウンの影響で、欧州を中心に製品本体の需要が減速し、7億円の減収
- 加えて、為替のマイナス影響が全社で53億円あり、全体で、260億円 減収の 1,332億円となりました。

2020年度第1四半期 事業セグメント利益の増減要因

コロナ影響による営業活動の制限などにより、販管費の抑制効果はあるものの、減収による影響を補いきれず、大幅な減益となる

単位：億円



事業セグメント利益の増減要因です。

ご覧の通り、P&S事業、N&C事業ともに販管費の抑制効果はあったものの、それぞれの減収による影響を補いきれず、大幅な減益となりました。

これらの結果、2020年度 第1四半期の事業セグメント利益は、前年比マイナス90億円の86億円となりました。

厳しい事業環境を受け、通期業績は減収・減益となる見込み

単位：億円

	19年度 実績	20年度 予想	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率
売上収益	6,373	5,600	-773	-12.1% (-9.7%)
事業セグメント利益	669	310	-359	-53.7%
事業セグメント利益率	10.5%	5.5%		
その他の収益・費用	4	0	-4	
営業利益	673	310	-363	-54.0%
営業利益率	10.6%	5.5%		
税引前利益	670	310	-360	-53.8%
親会社の所有者に帰属する当期利益	496	250	-246	-49.6%
USD	109.10	106.67		
EUR	121.14	119.76		

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

7

通期の業績予想は、厳しい事業環境を受け、通期業績は、減収・減益となる見込みです。

2020年度通期の売上収益は、前年比 773 億円減収となる **5,600**億円

利益は、

事業セグメント利益は、359億円減の **310**億円

営業利益は、363億円減の **310**億円

親会社当期利益は、246億円減の **250**億円

大幅な減益となることを見込んでおります。

2020年度通期 事業セグメント別予想

brother
at your side

単位：億円

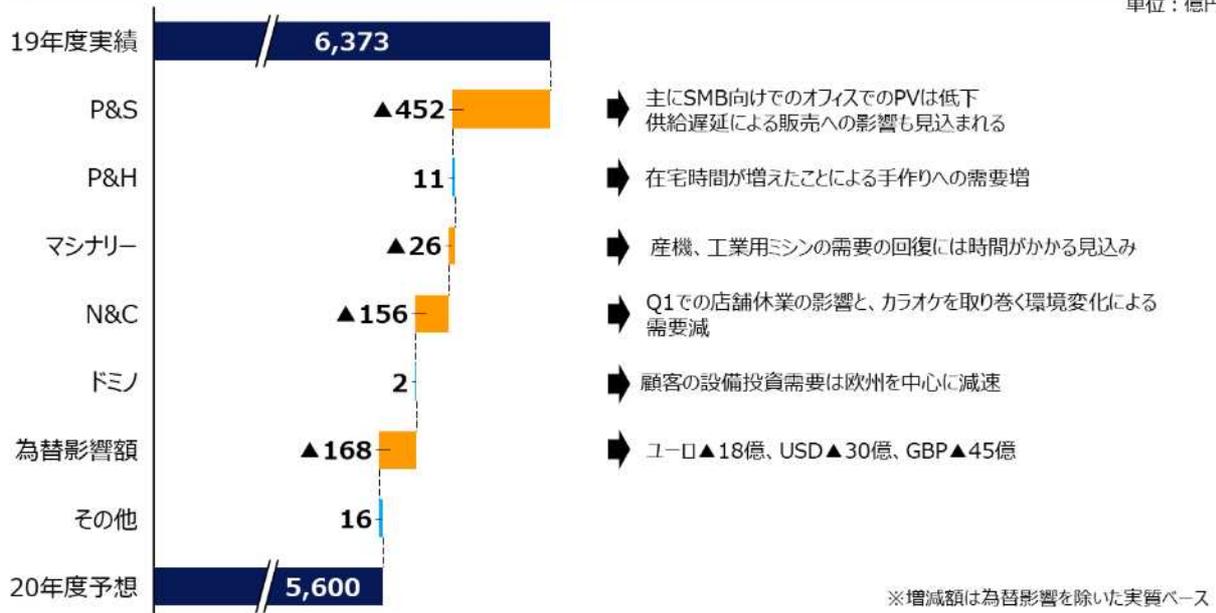
		19年度実績	20年度予想	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	3,907	3,349	-558
	事業セグメント利益	571	300	-271
	営業利益	571	312	-259
パーソナル&ホーム	売上収益	409	406	-3
	事業セグメント利益	31	25	-6
	営業利益	32	25	-7
マシナリー	売上収益	748	715	-33
	事業セグメント利益	7	1	-6
	営業利益	6	0	-6
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	491	335	-156
	事業セグメント利益	21	-47	-68
	営業利益	19	-45	-64
ドミノ	売上収益	675	636	-39
	事業セグメント利益	38	24	-14
	営業利益	39	22	-17
その他	売上収益	142	159	17
	事業セグメント利益	4	7	3
	営業利益	9	-4	-13
合計	売上収益	6,373	5,600	-773
	事業セグメント利益	669	310	-359
	営業利益	673	310	-363

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

2020年度通期 売上収益の増減要因

P&S事業、N&C事業の減収の影響に加え、為替のマイナス影響もあり、全体として大幅な減収となる見通し

単位：億円



20年度年間の売上収益の増減要因です。

- ・P&Sは、主にSMB向けのオフィスでのPVの低下、供給遅延による販売への影響もあり、大幅減収
- ・P&Hは、在宅時間が増えたことによる手作りへの需要が増加し、増収
- ・マシナリーは、産業機器、工業用ミシンの需要の回復には時間がかかる見込みで減収
- ・N&Cは、Q1での店舗休業の影響と、カラオケを取り巻く環境変化による需要の落ち込みで大幅な減収
- ・ドミノは、顧客の設備投資需要が欧州を中心に減速

加えて、為替のマイナス影響が全社で168億円あり、全体で773億円減収の5,600億円を見込んでいます。

単位：億円

	19年度末	20年度Q1	増減	
流動資産	4,088	4,079	-9	ネット・キャッシュ 19年度末 : +614億円 20年度Q1末 : +664億円
現預金	1,684	1,830	146	
棚卸資産	1,179	1,156	-23	
非流動資産	3,227	3,229	2	株主資本比率 19年度末 : 58.6% 20年度Q1末 : 58.8%
負債合計	2,863	2,846	-17	
有利子負債	1,070	1,166	96	
株主資本	4,285	4,297	11	
総資産	7,315	7,308	-7	

棚卸資産推移



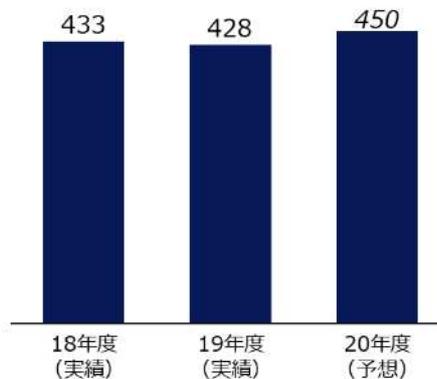
財政状態については、特に大きな変化はありません。

単位：億円

設備投資・減価償却費



研究開発費



事業別設備投資内訳

	18年度	19年度	20年度
P&S	95	109	155
P&H	9	5	10
マシンリー	40	24	37
N&C	52	49	21
ドミノ	31	21	22
その他	44	52	72
計	270	261	317

事業別研究開発費内訳

	18年度	19年度	20年度
P&S	290	277	291
P&H	22	22	23
マシンリー	50	54	57
N&C	5	9	10
ドミノ	38	38	40
その他	27	29	29
計	433	428	450

設備投資：

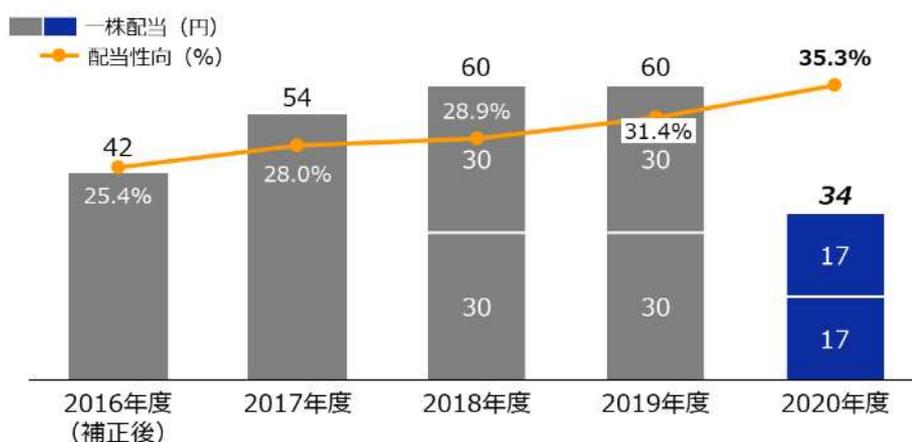
20年度は、P&S事業で新製品投入のための金型投資や既に着工している愛知県刈谷市での産業機器のショールームの建設費用等で、設備投資の水準はあがる見込みです。

開発費：

業績は厳しいですが、将来に向けた必要な投資は減らすことなく、すすめていきます。

◆中期戦略「CS B2021」方針：
 連結配当性向の目標を35%とし、安定的な株主還元を実施
 急激な経営環境の悪化による著しい業績低迷期を除き、1株あたり年間60円を配当の下限水準とする

◆2020年度の年間配当：
 新型コロナウイルス感染拡大の影響による厳しい経営環境を受け、
 年間の1株当たりの配当金予想を34円（連結配当性向35%）とする



株主還元については、将来の成長のための投資に必要な内部留保の確保やキャッシュ・フローの状況などを勘案しつつ、安定的な株主還元を実施することを基本方針としています。

2021年度を最終年度とする中期戦略「CS B2021」では、次なる成長に向けた成長基盤の構築のための投資を行う一方で、連結配当性向35%を目安とした安定的な利益還元を実施することを目標としております。加えて、急激な経営環境の悪化による著しい業績低迷時を除き、1株当たり年間60円を配当の下限水準としています。

現在の経営環境は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により急激に悪化しており、収束の時期も見通しがつかない状況です。当社の今期の業績につきましても大幅な減収減益となる見通しです。

このような経営環境を受け、2021年3月期の1株当たり配当金予想につきましては、年間34円（連結配当性向35%）とさせていただきます。

セグメント業績概要

プリンティング&ソリューションズ事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益

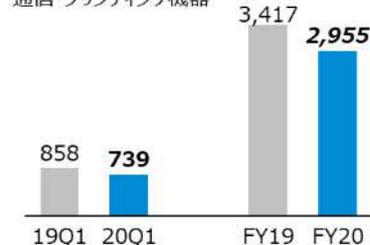
brother
at your side

単位：億円

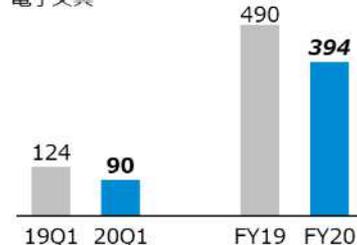
	19Q1	20Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	982	829	-15.6%	-11.8%	3,907	3,349	-14.3%	-11.6%
通信・プリンティング機器	858	739	-13.9%	-10.0%	3,417	2,955	-13.5%	-10.8%
米州	320	277	-13.4%	-9.1%	1,256	1,079	-14.1%	-10.1%
欧州	268	231	-13.6%	-9.9%	1,133	971	-14.3%	-12.7%
アジア他	165	141	-14.6%	-8.7%	591	519	-12.3%	-7.9%
日本	105	89	-14.9%	-14.9%	437	387	-11.5%	-11.5%
電子文具	124	90	-27.2%	-24.5%	490	394	-19.6%	-17.3%
米州	58	40	-32.0%	-29.4%	226	169	-25.3%	-22.3%
欧州	34	22	-35.3%	-33.1%	144	118	-18.1%	-17.1%
アジア他	20	16	-17.7%	-12.1%	72	63	-12.3%	-8.4%
日本	12	13	2.9%	2.9%	47	44	-7.6%	-7.6%
事業セグメント利益	164	94	-43.1%	-	571	300	-47.3%	-
営業利益	166	101	-39.3%	-	571	312	-45.3%	-

<売上収益>

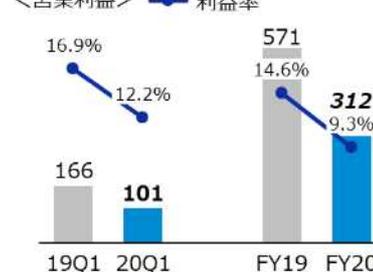
通信・プリンティング機器



電子文具



<営業利益> ● 利益率



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

14

P&S事業の第1四半期の売上収益は829億円。
現地通貨ベースでは、対前年で マイナス11.8%の減収となりました。

◇通信・プリンティング機器

売上収益は739億円。現地通貨ベースでは対前年で マイナス10.0%となりました。

レーザー複合機・プリンター：

在宅勤務や在宅学習の機会が増加したことにより、SOHO向けの需要は大きく増加したものの、各国ロックダウンによるオフィス閉鎖の影響を受け、SMB向けは本体、消耗品ともに減収となりました。

インクジェット複合機：

在宅勤務や在宅学習の機会の増加により需要は拡大しましたが、ロックダウンによる工場の操業停止の影響もあり、供給ができなかったことから販売数量は大幅に減少しました。加えて、為替のマイナス影響もあり、事業全体で減収となりました。

◇電子文具

売上収益は90億円で、現地通貨ベースでは、対前年でマイナス24.5%となりました。

ラベルライターが堅調に推移した日本をのぞき、各国のオフィス閉鎖や営業活動の制約などの影響でオフィス・業務用途のラベリング、ソリューション分野とも需要は低迷し、欧米を中心に、大幅な減収となりました。

事業セグメント利益は、94億円で、対前年でマイナス43.1%の減益となりました。

家庭/SOHO向けの需要は増加しましたが、SMB向けの落ち込みを吸収しきれなかったこと、加えて工場の操業停止による供給遅延、為替のマイナス影響もあり、大幅な減益となりました。

通期の見立て：

通信・プリンティングについては、別スライドにて扱います。

ラベリング・ソリューション分野については、ゆるやかに回復見込みも、オフィス・業務用途向けの需要の回復には、時間がかかる見込みです。

プリンティング&ソリューションズ事業 主要製品別売上伸び率・構成比



	18Q1	18Q2	18Q3	18Q4	19Q1	19Q2	19Q3	19Q4	20Q1	20Q2	20Q3	20Q4	18通期	19通期	20通期
LBP															
売上伸び率（円ベース/前年比）															
本体	1%	-3%	-5%	-17%	-9%	-8%	-7%	-2%	6%	-	-	-	-6%	-7%	-3%
消耗品	1%	1%	-1%	-4%	2%	-6%	-2%	-3%	-18%	-	-	-	-1%	-2%	-14%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）															
本体	2%	0%	-1%	-12%	-6%	-4%	-3%	2%	11%	-	-	-	-2%	-3%	1%
消耗品	1%	3%	2%	-1%	4%	-1%	3%	0%	-15%	-	-	-	1%	1%	-12%
IJP															
売上伸び率（円ベース/前年比）															
本体	-6%	-6%	2%	-6%	-2%	8%	-7%	-3%	-37%	-	-	-	-4%	-1%	-28%
消耗品	1%	-1%	-3%	-5%	1%	-2%	-8%	4%	-23%	-	-	-	-2%	-2%	-20%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）															
本体	-3%	-2%	6%	-1%	1%	13%	-4%	0%	-33%	-	-	-	-1%	2%	-25%
消耗品	1%	1%	0%	-2%	3%	3%	-5%	7%	-20%	-	-	-	0%	2%	-18%
消耗品比率															
	58%	58%	57%	61%	60%	58%	57%	59%	55%	-	-	-	58%	58%	56%
販売台数伸び率（実績のみ/前年比）															
LBP	-1%	-8%	-7%	-16%	-13%	-4%	-2%	3%	12%	-	-	-	-8%	-5%	-
IJP	-1%	-2%	-1%	-4%	0%	13%	1%	7%	-39%	-	-	-	-2%	5%	-

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

15

主要製品の売上伸び率・構成比です。

レーザー（LBP）の売上伸び率（現地通貨ベース）は、本体がプラス11%、消耗品はマイナス15%となりました。
インクジェット（IJP）の売上伸び率（現地通貨ベース）は、本体がマイナス33%、消耗品はマイナス20%となりました。

消耗品比率：

製品本体ではLBPの本体販売数量が伸びたこと、消耗品では、主にオフィスでのPVが減少し、消耗品売上が落ち込んだことにより、過去8四半期と比較しても、低い水準となりました。

販売台数：

LBPでは、SOHO向け製品の販売が好調に推移し、プラス12%。
IJPでは需要は強いのですが、供給遅延による影響でマイナス39%となりました。

通期見通し：

LBPの製品本体では、SOHO向けは在宅勤務、在宅学習向けの製品本体への需要は一巡する見込みです。
SMB向けについては、緩やかな回復が見込まれますが、オフィスでのPVの減少により、通期を通じ、消耗品の売上は弱い状況が続くものと想定しています。

IJPについては、新興国市場での感染の拡大基調が懸念されることや、製品供給遅延による影響により製品本体、消耗品とも、通期を通じて売上は低い水準で推移するものと想定しております。

需要動向：年度末にかけて需要は緩やかに回復見込み

Q1	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務、在宅学習の機会増加により、家庭/SOHO向けの小型機に対する需要が増加（IJP、LBPのローエンド製品中心） ・各国でのロックダウンによるオフィスの閉鎖等による影響で、SMB向けを中心にQ1の需要は、製品本体・消耗品ともに低迷
Q2以降の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・ロックダウン解除による経済活動の再開で、需要は緩やかに回復見込みも、コロナ前の状況までは回復せず ・在宅勤務、在宅学習向けの需要拡大は一巡する見通し ・在宅勤務の機会の増加により、オフィスで稼働するプリンタのPVは低下する見込み

業績見通し：オフィスでのPV減少、供給遅延による影響もあり、減収減益を見込む

Q1	<ul style="list-style-type: none"> ・SOHO向けでは在宅勤務の機会拡大による需要は高まるも、SMB向けのPVの減少に加え、供給遅延の影響もあり、減収、減益となった
Q2以降の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・生産は7月末時点で、おおむねコロナ前の水準まで回復 ・需要は段階的な回復を見込むも、オフィス向けのプリンタのPVの減少や、供給遅延による機会損失により、Q2以降の売上/利益に影響が出る見込み ・SMB向けでは、在宅勤務の機会増加によるオフィスでのPV減少の影響を受け、年間を通じて本体・消耗品とも厳しい状況となる見込み ・新興国（中国を除く）については、脆弱なインフラ、EC（イーコマース）基盤の不足、感染の拡大基調も想定され、年間を通じて厳しい状況を見込む

P&S事業の需要動向、業績見通しについてご説明します。

【需要動向】 業界全体の需要動向です。

Q1では、家庭/SOHO向けの小型機に対する需要が増加した一方で、SMB向けを中心に製品本体、消耗品ともに需要は低迷しました。

Q2以降の見通しでは、需要は緩やかに回復することを見込んでいますが、コロナ前の状況までは戻らないものと見ています。在宅勤務、在宅学習向けの製品本体への需要は一巡する見込みですが、消耗品については、在宅勤務の機会の増加により、オフィスで稼働するプリンタのPVは低下すると見ています。

【業績見通し】 ブラザーのQ1実績と、Q2以降の見通しです。

Q1実績は前のスライドでご説明したとおりです。

Q2以降の見通しですが、生産は7月末時点で、おおむねコロナ前の水準まで回復しています。

需要は段階的な回復を見込んでいますが、主にオフィス向けのプリンタのPVの減少や、供給遅延による機会損失により、減収、減益を見込んでいます。

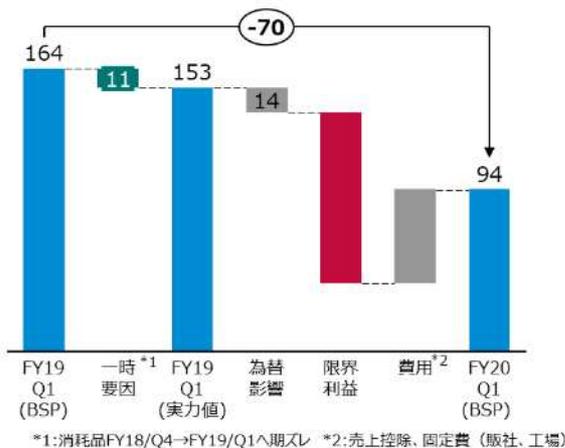
プリンティング&ソリューションズ事業 Q1実績・Q2以降の見通し

brother
at your side

単位：億円

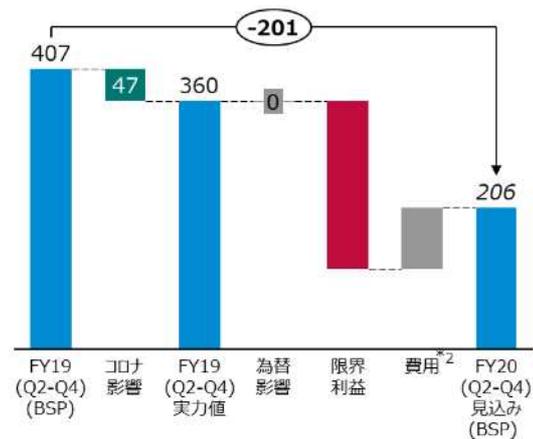
Q1実績

- ・SOHO向けの在宅勤務による需要は高まるも、SMB向けのPV減少、供給遅延の影響もあり、減収、減益となった。
- ・Q1では営業活動の制限により費用は減少も、売上減収を受け、主に消耗品の限利の大幅減を吸収できず。



Q2以降の見通し (7月-3月)

- ・需要は段階的な回復を見込むも、主にSMB向けのプリンタのPVの減少や、供給遅延による機会損失により、減収、減益を見込む。
- ・販促費用はQ2以降も大幅に削減予定ではあるものの、営業活動の再開、工場稼働率の回復による固定費増、および供給遅延対応のための消耗品の航空輸送費などが加わり、費用の水準は高くなる見込み。



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

17

P&S事業セグメント利益の増減要因分析です。主に費用についてご説明します。

Q1 :

営業活動の制限により費用は大幅に減少しましたが、売上減収を受けた限界利益の大幅減を吸収できませんでした。

Q2以降の見通し :

販促費用はQ2以降も削減予定ではあるものの、営業活動の再開、工場稼働率の回復による固定費増、および供給遅延への対応のための消耗品の航空輸送費などが加わり、費用の水準は高くなり、利益を圧迫する見込みです。

パーソナル&ホーム事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益

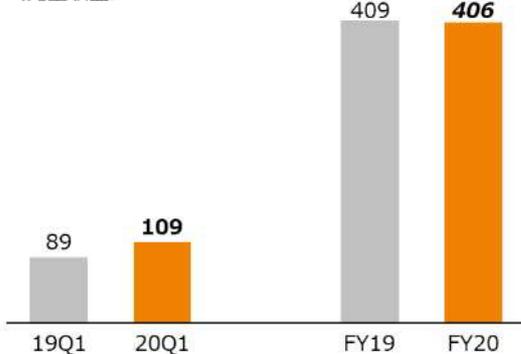
brother
at your side

単位：億円

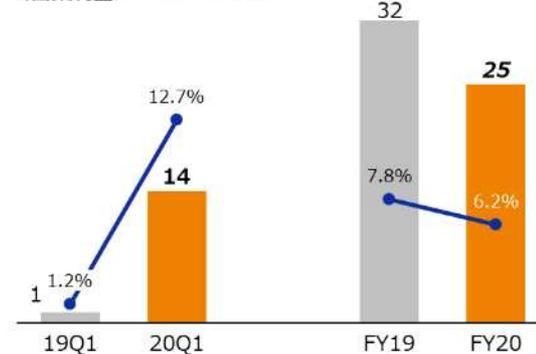
	19Q1	20Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	89	109	22.3%	28.3%	409	406	-0.6%	2.7%
米州	46	52	12.3%	19.7%	223	217	-2.6%	2.1%
欧州	24	34	41.4%	46.5%	108	110	2.2%	3.4%
アジア他	12	13	9.4%	15.5%	46	46	-1.0%	3.5%
日本	7	10	44.1%	44.1%	32	33	3.7%	3.7%

事業セグメント利益	1	14	847.7%	-	31	25	-20.1%	-
営業利益	1	14	1220.7%	-	32	25	-21.2%	-

<売上収益>



<営業利益> ● 利益率



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

18

P&H事業の第1四半期の売上収益は109億円、
現地通貨ベースの伸び率では、プラス28.3%の大幅な増収となりました。

家庭用ミシンは、各国でのロックダウンや、在宅勤務の機会の拡大により、
自宅で過ごす時間が増えたことで、マスクづくりなどの手作り需要が喚起され、普及機を中心に販売は好調に推移しました。

利益については、
前年同期の1億円に対して、13億円増の14億円となり、大幅な増益となりました。

通期については、手作り需要の高まりにより、売上は前年度並を想定していますが、製品構成の変化により、減益となる見通しです。

マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

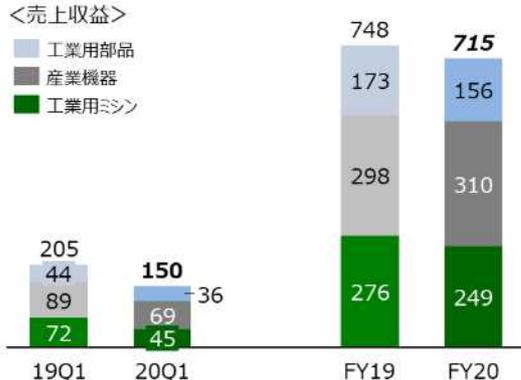
brother
at your side

単位：億円

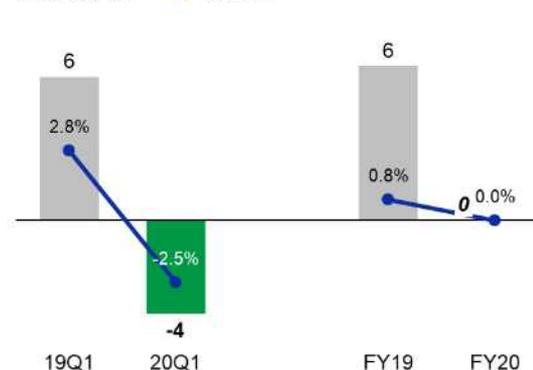
	19Q1	20Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	205	150	-26.7%	-24.9%	748	715	-4.4%	-3.5%
工業用マシン	72	45	-37.7%	-35.8%	276	249	-9.9%	-8.5%
産業機器	89	69	-22.2%	-20.0%	298	310	3.9%	4.7%
工業用部品	44	36	-17.9%	-17.0%	173	156	-10.0%	-9.7%
事業セグメント利益	5	-1	-	-	7	1	-85.6%	-
営業利益	6	-4	-	-	6	0	-100.0%	-

<売上収益>

■ 工業用部品
■ 産業機器
■ 工業用マシン



<営業利益> ● 利益率



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

19

マシナリー事業の第1四半期の売上収益は、マシナリー事業全体で150億円。
現地通貨ベースの対前年で マイナス26.7%の大幅な減収となりました。

◇工業用マシン：

ガーメントプリンターは、ECサイトを利用するお客様からの引き合いが強く、需要拡大が続いたものの、縫製工場向けの市場が低調に推移していたところに、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が重なり事業全体で大幅な減収となりました。

◇産業機器：

IT向けはノートPCなどのスポット案件の効果もあり増加したものの、自動車・一般機械関連向けは世界的な自動車販売台数の減少を受けた顧客の新規設備投資の抑制による影響が大きく、大幅な減収となりました。

◇工業用部品：

国内向けは製造業全般の製造活動鈍化や設備投資抑制の動きが高まったこと、海外向けは主にアジア向けの需要が低迷したことにより、減収となりました。

売上収益の内訳は、

工業用マシンが45億円、産業機器が69億円、工業用部品が36億円となりました。

利益は、事業全体で、事業セグメント損失マイナス1億円、営業損失マイナス4億円の赤字となりました。

通期については、ガーメントプリンターは堅調な推移を見込んでいるものの、産業機器、工業用マシン、工業用部品については、これまで低調な事業環境が続いていましたが、コロナウイルスによる影響も重なり、需要の低迷を受け、減益となる見通しです。

マシナリー事業 地域別売上収益



単位：億円

	19Q1	20Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20	増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	205	150	-26.7%	-24.9%	748	715	-4.4%	-3.5%
工業用マシン	72	45	-37.7%	-35.8%	276	249	-9.9%	-8.5%
米州	15	18	18.5%	21.2%	70	77	9.1%	11.5%
欧州	18	11	-39.6%	-37.5%	68	57	-16.1%	-15.3%
アジア他	37	14	-62.4%	-60.8%	129	106	-17.6%	-16.1%
日本	2	2	11.7%	11.7%	9	9	-3.2%	-3.2%
産業機器	89	69	-22.2%	-20.0%	298	310	3.9%	4.7%
米州	8	6	-25.1%	-	20	12	-40.4%	-
欧州	8	3	-57.4%	-	21	14	-34.4%	-
アジア他	49	49	0.8%	-	168	223	33.0%	-
日本	25	11	-56.2%	-	89	61	-31.4%	-
工業用部品	44	36	-17.9%	-17.0%	173	156	-10.0%	-9.7%
米州	7	5	-26.8%	-25.2%	23	18	-24.1%	-22.4%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	5	4	-23.4%	-18.2%	18	19	3.2%	6.6%
日本	33	28	-15.2%	-15.2%	132	120	-9.4%	-9.4%

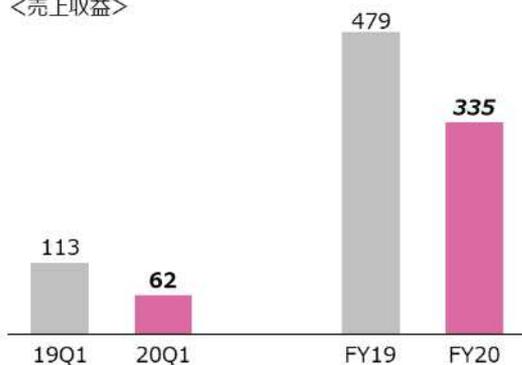
ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother
at your side

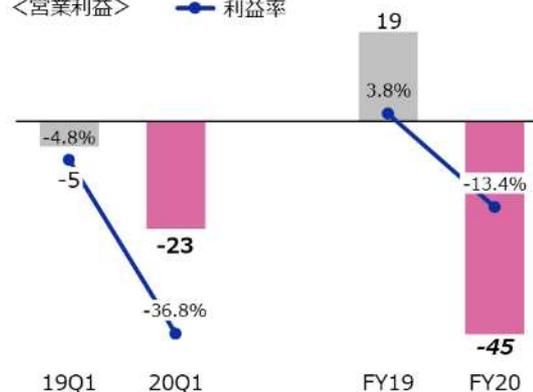
単位：億円

	19Q1	20Q1	増減率	FY19	FY20	対前年 増減率
売上収益	113	62	-45.6%	491	335	-31.8%
事業セグメント利益	-6	-23	-	21	-47	-
営業利益	-5	-23	-	19	-45	-

<売上収益>



<営業利益> 利益率



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

21

ネットワーク・アンド・コンテンツ事業は、カラオケをとりまく環境の大きな変化により、非常に厳しい経営環境となりました。

第1四半期の売上収益は、62億円、対前年でマイナス45.6%の大幅な減収となりました。

利益については、

事業セグメント損失 マイナス23億円、営業損失 マイナス23億円の赤字となりました。

店舗の休業影響、及びカラオケ機器販売の落ち込みによる売上の減収を受け、大幅な赤字となりました。

次ページにて詳細をご説明します。

ネットワーク&コンテンツ事業 Q1実績・通期見通し

brother
at your side

単位：億円

Q1実績

業務用カラオケ

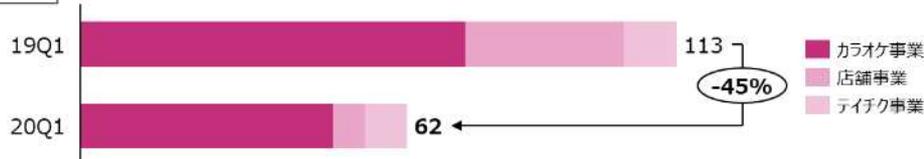
前年同期比
約4割減収

営業自粛に伴う減免措置による売上減、カラオケ需要低迷による機器販売減などにより、約4割の減収

直営店舗

前年同期比
約8割減収

緊急事態宣言による休業要請に応じ、4月、5月の直営店舗をほぼ完全休業したことにより約8割の大幅減収。5月末より、段階的に店舗営業を再開しているが、客足のもどりは弱い。



通期見通し

業務用カラオケ

前年比3割
減収見込み

稼働台数、固定売上（情報提供料・レンタル料）ともに営業自粛にともなう減免措置が解除される7月以降は、期末までに、対前期比9割程度までの回復を想定

収益悪化に伴い、大規模なコストダウンを実行する

直営店舗

前年比約4割
減収見込み

6年度の店舗売上は、前年同月比で約5割の水準まで回復

Q2以降、市場は緩やかに回復し、段階的に、対前期比8割程度までの回復を想定

店舗営業継続の基準を設け、不採算店舗については基準に照らして閉店を実施

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

22

N&C事業のQ1実績、通期見通しについて、カラオケ事業と、店舗事業とに分けてご説明します。

Q1実績：

業務用カラオケ事業は、前年比約4割の減収となりました。営業自粛により休業されているお客様への情報提供料の減免措置の適用、カラオケ需要低迷による機器販売、レンタル、情報提供料の収入も低迷し大幅減収となりました。

店舗事業は、前年比約8割の減収となりました。緊急事態宣言による休業要請に応じ、4月、5月の直営店舗をほぼ完全休業したことにより大幅減収となりました。5月末より、感染症防止対策を講じた上で、段階的に店舗営業を再開していますが、客足のもどりは6月で平均5割です。

通期見通し：

業務用カラオケ事業は、前期比で約3割の減収見込みです。稼働台数、固定売上（情報量・レンタル料）ともに営業自粛にともなう減免措置が6月末で解除され、7月以降は、期末までに、対前期比で9割程度までの回復を想定しています。収益悪化に伴い、大規模なコストダウンを実行してまいります。

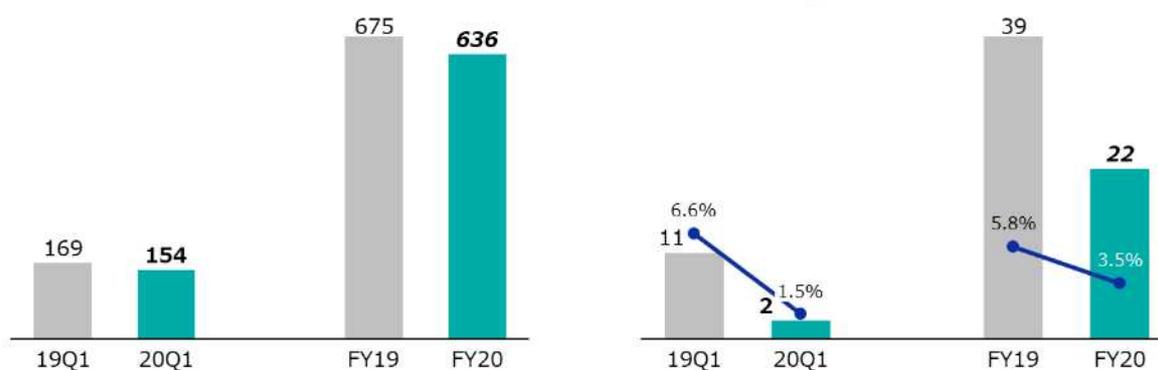
店舗事業は、前期比で約4割の減収見込みです。6月の店舗売上は、カラオケ直営店舗では平均約5割まで回復しました。Q2以降、市場は緩やかに回復し、段階的に、対前期比8割程度まで回復を想定しています。なお、店舗営業継続の基準を設け、不採算店舗については基準に照らして閉店を実施してまいります。

単位：億円

	19Q1	20Q1	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	169	154	-8.8%	-4.2%	675	636	-5.8%	0.3%
米州	39	42	7.8%	14.6%	165	159	-3.6%	4.9%
欧州	84	68	-19.0%	-16.1%	329	299	-9.2%	-4.7%
アジア他	46	44	-4.0%	1.6%	182	179	-1.8%	4.6%
事業セグメント利益	11	4	-67.5%	-	38	24	-36.6%	-
営業利益	11	2	-78.8%	-	39	22	-43.8%	-

<売上収益>

<営業利益> ● 利益率



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

23

ドミノ事業のQ1の売上収益は154億円、ポンドベースの伸び率では、前年比 マイナス4.2%の減収となりました。コロナ影響を受け、主に欧州での需要が低調に推移しました。

設備投資需要の低迷を受けて製品本体の販売は減速したことや、顧客の工場での設置・検収などの営業活動にも制限が加わり、事業全体で減収となりました。

利益については、事業セグメント利益が4億円、営業利益が2億円と、売上の減収および売上構成の変化により、大幅な減益となりました。

通期については、設備投資需要の回復には時間がかかり、需要が弱い状態が続くと想定されること、および売上構成の変化により、減益となる見込みです。

ドミノ初となるコルゲート印刷機を発売。段ボール印刷への進出で、
DP（デジタル印刷）事業の更なる売上拡大を目指す

Digital Corrugated Press 「X630i」



✓ **水性インクのコルゲート(段ボール)印刷機**

- ・コーティングされている段ボールにも
事前の処理が不要で高生産性を実現
- ・ **食品包装にも使用可能な水性インク**を使用

✓ **段ボール印刷分野へ事業拡大**

パッケージ印刷市場

ラベル

「N610i」

段ボール

紙器
パッケージ

軟包装

この第1四半期に、ドミノ初となるコルゲート印刷機を発売しました。

これにより、パッケージ印刷市場の中でも、ラベル印刷市場に加えて、段ボール向け市場に進出することができました。

段ボールへの高速オンデマンド印刷対応により、お客様のコスト面や環境面に貢献し、今後のデジタル印刷事業のさらなる売り上げ拡大を目指していきます。

◆ご参考：

VIDEO: Domino X630i digital aqueous inkjet corrugated press

<https://www.youtube.com/watch?v=YqIhlyCky4I>

「FTSE4Good Index Series」および
「FTSE Blossom Japan Index」に
初選定

「MSCI 日本株女性活躍指数(WIN)」
に初選定



FTSE4Good FTSE Blossom
Japan

2020 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

- ✓ 年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)に採用されている4つのESG投資*指標のうち、「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI 日本株女性活躍指数(WIN)」「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」の3つに選定された

*:環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)に配慮している企業を重視・選別して行う投資

DISCLAIMER
THE INCLUSION OF BROTHER INDUSTRIES, LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF BROTHER INDUSTRIES, LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

ブラザーグループの方針、ESG活動に関する情報開示に力を入れたことにより、ESGレーティングのスコアが向上し、GPIFが指数として採用する、FTSEとMSCIのESGインデックスに初選定されました。

今後も、ESG活動への取り組みを積極的に進め、事業の成長と社会的責任の遂行によって、すべてのステークホルダーとの長期的な信頼関係を構築してまいります。

brother
at your side